

2026年度 大学入学共通テスト 古典(本試験) 分析

試験時間 現代文とあわせて 90 分

難易度	出題分量	出題傾向
前年よりやや難化した。古文は紛らわしい選択肢が複数あり、やや解きにくい。漢文は文章・設問ともに昨年並みで難易度も標準的。	総字数は昨年とほぼ変化なし。設問数は古文で+2、漢文で+1。マーク数は古文は変化なし。漢文は-1。	古文では昨年度第4問で出題された複数テクストと会話文はなくなり、代わりに同一作品の後に続く箇所が出題された。漢文では同一筆者の異なる文章が出題された。
総評		オーソドックスな出題に回帰する傾向が見られた。共通テストの特徴である複数テクストの読み比べの問題は出題されているが、いずれも関連性がわかりやすく、きちんと勉強してきた受験生であればとまどうことなく解答できたのではないか。受験生の力がはっきりと出る問題である。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第4問	古文	45点	平安時代の物語『うつほ物語』からの出題。問1の解釈の問題、問2の語句と内容(事実上の文法と敬語の知識問題)は平易。問3は標準的。問4・5は選択肢が5つで、やや選びにくいか。
第5問	漢文	45点	江戸時代の漢学者による文章。漢詩の出題もなく、中国古典の出題に比べればかなり読みやすい。問1の語句の意味、問3の返り点と書き下し文の問題は例年通りの出題で、難易度も標準的。その他は解釈と内容に関する問題で、共通テストでよく出題されている形式である。難易度も標準的だ。

1・2年生へのワンポイントアドバイス

まず古典文法と敬語、漢文の基本句形と返り点・書き下し文を完璧に仕上げることを目指そう。これだけで得点率50%が狙える。きちんと勉強していれば解ける問題なので、無駄な失点をしないよう普段から勉強を積み重ねよう。そのうえで、読解問題の対策を進めよう。基本的な問題集を繰り返して読解力を向上させてから、共テ対策の学習に進むとよい。時間を意識した演習は受験直前で十分で、時間をかけてじっくり勉強することを意識したい。